

【樹木の部屋】

ウラジロモミ（マツ科モミ属 *Abies homolepis*）

和名：ウラジロモミ（裏白樅） **別名**：ニッコウモミ、ダケモミ

英名：Manchurian fir、Nikko fir

マツ目 常緑針葉高木

原産地：日本

花言葉：時間 **花の色**：



← 写真-1 ウラジロモミの幼樹形

撮影日：2014年02月06日

撮影場所：飛騨民族村(岐阜県高山市)にて

撮影者：Mさん



→ 写真-2 ウラジロモミの枝先

撮影日：2014年02月06日

撮影場所：飛騨民族村

(岐阜県高山市)にて

撮影者：Mさん

岐阜県高山市にある民族村を訪れた際、村内で見かけました。まだ、幼木ですが、枝先が、二叉する特徴のある枝先・・・。「樅」の名札も付けられていました。が、どうやら、ウラジロモミのようです。

ウラジロモミとモミの見分け方ですが、遠目から見ると葉の裏側が白く見え、

近づいて見ると、写真2のように緑と白のストライプ模様に……。これがモミノキとの大きな違いです。(モミノキは薄緑色の単色です)。また、若枝に短い毛が無く、モミには短毛があります。さらに、モミノキは暖地向きであるのに対し、ウラジロモミは高地性で、モミノキよりも寒冷で空気の綺麗な場所を好み、寒さに強く、暑さに弱い樹木です。

成長すると20mを越える高木。一方では、自然樹形が美しい樹木。剪定すると、樹形が乱れるため、本来の樹形を保つには、非常に困難で、20年、30年と経つにつれ、日本では持て余し気味になりやすい樹木です。

日本では、「クリスマスツリー＝モミ」と連想されているようですが、ウラジロモミもモミとともにクリスマスツリー用に多く販売されているそうです。一方、ヨーロッパでは、モミではなく、オウシュウトウヒが使用されています。オウシュウトウヒの幼木はモミとの見分けが難しい樹木ですが、成長するに連れて、独特のコーン(球果)とやや固めの葉で見分け易くなるようです。日本でも、成長が早いため、苗木が安く流通しているそうです。

<ちょっと一言>

*オウシュウトウヒ

学名 : *Picea abies* **和名** : オウシュウトウヒ (欧州唐檜)

別名 : ドイツトウヒ、ヨーロッパトウヒ、ドイツマツ

英名 : Norway Spruce

マツ科トウヒ属 常緑針葉高木 **原産地** : ヨーロッパ

モミが日本で、クリスマスツリーに使用されるようになったのは、オウシュウトウヒの学名 *Picea abies* の *abies* が、モミの属名 *Abies* と同じだったため、間違えられたとの意見もあります。

*モミ

学名 : *Abies firma* **和名** : モミ (樅) **別名** : モムノキ、サナギ

英名 : Momi fir、Japanese fir

マツ科モミ属 常緑針葉高木 **原産地** : 日本

*クリスマスツリー

キリストの生誕祭であるクリスマスに、ツリーを飾る起源は聖書には無く、よく分からないようだ。15世紀のドイツで飾られたのが記録に残る最初のクリスマスツリーだそうです。日本では、江戸末期にプロイセン公使が飾ったのが最初とされるそうです。